

[主催] 旭川大学・旭川大学短期大学部、旭川大学大学院、旭川大学地域研究所

旭川大学では地域に開かれた研究会を積極的に開催しています。

旭川大学地域研究所 研究会

テーマ: 社会共生学が拓く地域活性化の可能性

—地域の経営資源をどのように活用するか—

旭川の人口は30年間で3割減少すると推計されています。旭川が今後も繁栄していくためには、歴史・文化・自然や女性・高齢者等の活躍を含めた地域の経営資源を最大限に活用する必要があります。その時、私たちは見過ごすことのできない経済的問題にどのように向き合い、どのように地域社会をデザインしていくのか、社会共生学を通じて考えます。

参加料
無料

日時: 2019年 **9月20日**(金) 午後6:00~午後8:00 (受付5:30~)

場所: 旭川大学 北辰会館 2階 (旭川市永山3条23丁目)

対象者: 中小企業経営者・経営幹部、まちづくり・福祉関係従事者、地域経済団体職員、行政担当者など

定員: 70名 (定員になり次第締め切らせていただきます。)

お申込: 9月18日(水)までに、

下の申込書により FAX、または

電話でお申込みください。

1 基調講演: 社会共生学の理念と方法

講演者のプロフィール



元龍谷大学経営学部教授・学部長、元龍谷大学京都産業学センター代表 **重本 直利** 氏
現在: NPO 法人京都社会文化センター理事長、大学評価学会顧問

- ・社会経営学および社会共生学の提唱者。最近の編著書『社会共生学研究—いかに資本主義をマネジメント(制御)していくか—』(晃洋書房)が地域活性化を成功させるためのパラダイム転換の基本書として、多くの大学や行政など各方面から注目されている。
- ・北海道大学理学部物理学科卒、立命館大学大学院経営学研究科博士課程単位取得、北見工業大学助教授、大阪経済大学教授を経て、龍谷大学経営学部教授(2018年3月退職)
- 【専門】社会経営学、経営組織論
- 【著書】『もしマルクスがドラッカーを読んだら資本主義をどうマネジメントするだろう』(かもがわ出版)、『社会経営学研究—経済競争の経営から社会共生的経営へ—』(編著、晃洋書房)、『社会経営学序説』(晃洋書房)ほか

2 事例報告

報告者のプロフィール



大阪経済法科大学地域総合研究所客員教授 **三宅正伸** 氏

- ・演題: 京都における社会共生の事例研究—福祉の地域づくりを考える
- ・地域デザイン論担当
- ・元京都市職員、大阪商業大学大学院博士後期課程単位取得
- 【専門】人的資源管理論、公共経営論、共生地域社会「まちづくり」論

旭川大学短期大学部副学長・教授 **北島 滋**

- ・演題: ニセコ町における社会共生のまちづくりをめぐる歴史・現状・課題
- ・法政大学大学院博士課程社会学専攻単位取得退学、社会学博士
- ・宇都宮大学名誉教授を経て、旭川大学短期大学部教授
- 【専門】産業・労働社会学、地域社会学

コーディネーターのプロフィール

杉村樹可

- ・旭川大学経済学部教授
- ・元日本政策金融公庫旭川支店国民生活事業統轄
- 【専門】経営行動科学、中小企業経営論、地域経営論

お問合せ: 旭川大学地域研究所

TEL: 48-3121 FAX: 49-2552

(担当: 鈴木または杉村)

研究会参加申込書

旭川大学地域研究所 (FAX: 49-2552) 行

2019年 月 日

ご所属事業所・機関名

お電話

ご住所

FAX

ご参加者名

ご参加者名

※ ご記入いただいた情報は、旭川大学・旭川大学短期大学部、旭川大学大学院、旭川大学地域研究所からの各種連絡・情報提供のために利用させていただきます。